



トピックス…③

好調を維持しつつも引き続き雇用状況が厳しい酪農 ～ 令和2年1月農業景況調査より ～

日本政策金融公庫・農林水産事業は令和2年3月26日、融資先の担い手農業者を対象に実施した「令和元年農業景況調査」（令和2年1月調査）の結果を公表した。酪農は北海道、都府県ともに、近年の乳価の上昇等を背景に平成27年以降の好調を維持しているが、引き続き雇用状況が厳しい状況にある。ここでは、本調査の概要を紹介する。

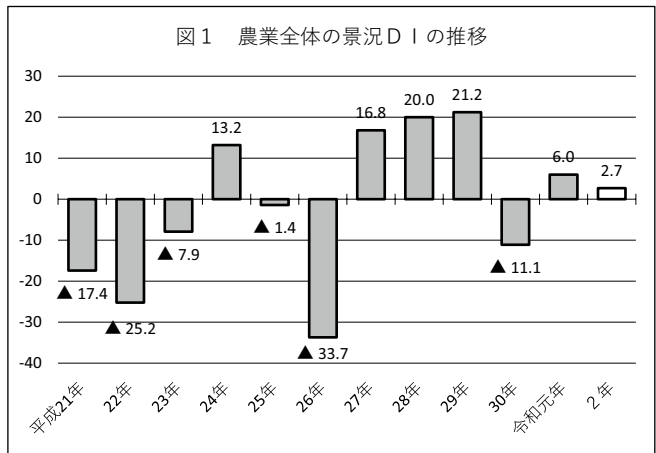
1. 農業景況は改善、景況DIはプラス値へ転換（図1）

令和元年の農業全体の景況DIは6.0となり、平成30年の▲11.1から17.1ポイント上昇し、プラス値に転換した。また、令和2年の景況DIの見通し（2.7）は、令和元年実績から3.3ポイント低下するものの、プラス値を維持する見込みである。

DI（Diffusion Index＝動向指数）とは、前年と比較して「良くなった（良くなる）」とする回答者の割合（％）から、「悪くなった（悪くなる）」とする回答者の割合（％）を差し引いた値で、上向き、下向きといった方向感を捉える指標である。なお、本調査（令和2年1月実施）における見通しの回答には、新型コロナウイルス感染症の拡大によるイベントの自粛や入国規制などの影響は考慮されていない。

本調査（往復はがきによる郵送アンケート調査）の対象者は、認定農業者の経営改善の取組みを後押しする「スーパーL資金」又は担い手農業者の新たな取組みを支援する「農業改良資金」の融資先（19,085件）で、有効回答数は6,676件（回収率：35.0％）であった。

業種別回答数は、稲作（北海道）：773件、稲作（都府県）：1,660件、畑作：616件、露地野菜：624件、施設野菜：552件、茶：126件、果樹：345件、施設花き：158件、きのこ：69件、酪農（北海道）：261件、酪農（都府県）：249件、肉用牛：435件、養豚：220件、採卵鶏：126件、



出典：「令和元年農業景況調査」（日本政策金融公庫 農林水産事業本部）、以下同じ。

プロイラー：75件、その他：387件であった。

2. 稲作、畑作が大幅に改善しプラス値に転換（表1、2）

業種別の景況DIをみると、稲作（北海道：▲51.8→26.5、都府県：▲10.7→11.4）は、前年の天候不順や自然災害の影響による景況悪化から回復し、景況DIはプラス値に転じた。

酪農（北海道：25.0→30.3、都府県：2.5→8.4）は、近年の乳価の上昇を背景に平成27年以降プラス値で推移し

表1. 景況DI

	平成27年実績	28年実績	29年実績	30年実績	令和元年実績	2年通年見通し
農業全体	16.8	20.0	21.2	▲ 11.1	6.0	2.7
稲作（北海道）	20.1	▲ 4.9	39.7	▲ 51.8	26.5	▲ 2.1
稲作（都府県）	▲ 3.8	23.6	10.3	▲ 10.7	11.4	8.6
畑作	35.2	▲ 17.6	34.8	▲ 22.7	31.6	▲ 6.9
露地野菜	14.3	14.7	7.5	▲ 3.4	▲ 9.3	▲ 3.7
施設野菜	20.3	26.3	15.0	▲ 1.4	▲ 22.4	4.2
茶	▲ 53.1	11.1	26.5	▲ 14.5	▲ 53.1	▲ 37.6
果樹	11.5	25.6	21.8	20.6	7.5	18.3
施設花き	▲ 5.9	11.8	▲ 10.6	▲ 13.7	▲ 20.2	0.0
きのこ	15.2	1.1	▲ 2.5	▲ 21.0	▲ 23.2	▲ 10.2
酪農（北海道）	55.9	57.6	44.8	25.0	30.3	1.1
酪農（都府県）	29.3	52.2	12.6	2.5	8.4	18.4
肉用牛	48.5	50.3	17.5	4.7	▲ 0.2	▲ 12.3
養豚	48.8	26.2	59.4	▲ 27.2	▲ 4.1	4.2
採卵鶏	71.0	40.8	32.7	▲ 61.2	▲ 38.9	22.4
プロイラー	51.9	27.4	55.3	15.9	14.7	4.0

出典：「令和元年農業景況調査」（日本政策金融公庫 農林水産事業本部）、以下同じ。

ている。また、養豚（▲27.2→▲4.1）は、軟調に推移していた豚価が回復基調に転じたことで、景況D Iは改善した。

一方で、施設野菜（▲1.4→▲22.4）は、販売価格の下落により景況D Iが大きく低下した。また、茶（▲14.5→▲53.1）は、前年の価格低迷を受けて生産量を抑制したものの、価格の回復には至らず、景況D Iは大きく低下している。採卵鶏（▲61.2→▲38.9）は、令和元年後半からの価格の回復を受け、景況D Iのマイナス幅は縮小したものの、引き続き大幅なマイナス値となっている。

3. 令和2年の農業景況D Iの見通しはプラス値を維持（図1、表1）

すでに述べたように、令和2年の農業全体の景況D I（6.0→2.7）は、プラス値を維持しつつも、やや慎重な見方となる見通しである。

都府県の酪農（8.4→18.4）は、堅調な乳価を背景に引き続きプラス値を維持する見通しで、採卵鶏（▲38.9→22.4）は、令和元年の後半から価格が回復基調に転じたこともあり、景況は大幅に改善する見通しである。

令和元年に回復の動きがみられた稲作（北海道）及び畑作の先行き（稲作・北海道：26.5→▲2.1、畑作：31.6→▲6.9）は、慎重な見方となっている。

平成27年以降好調が続いていた北海道の酪農は、令和元年よりプラス幅が縮小（30.3→1.1）するのに対して、都府県の酪農は引き続き好調を持続（8.4→18.4）する見通しである。

肉用牛（▲0.2→▲12.3）は販売価格が下落傾向にあり、景況D Iも低下する見通しである。取引価格の低迷が続く茶（▲53.1→▲37.6）は、引き続き大幅なマイナス値となる見通しである。

4. 雇用D Iは大幅マイナス値が継続、深刻な労働力不足の状況が続く（表3、4）

農業全体の令和元年下半期の雇用状況D Iは▲34.9となり、前年（▲34.7）から横ばいで推移した。同D Iの調査を開始した平成27年以降、全業種で大幅なマイナス値が続いており、依然として深刻な労働力不足の状況にあることを示している。

酪農も、北海道（▲44.1→▲38.7）、都府県（▲26.3→▲35.3）ともに、非常に厳しい雇用状況が続いており、とくに都府県での雇用状況の悪化が急速に進んでいる。

設備投資の動向は、令和2年1月時点で「令和2年に設備投資予定あり」と回答した割合が農業全体で44.3%となり、前年（44.3%）から横ばいとなっている。また、「令和2年に設備投資予定あり」と回答した者に対して、今年の設備投資額の増減見

通しを聞いたところ、「昨年に比べ増加する（48.7%）」との回答が約半数を占めた。

このような状況の中、酪農は「設備投資予定あり」の高い回答割合を維持しているが、北海道、都府県ともに、平成29年以降減少する傾向がみられる。

表2. 販売単価D I

	平成27年	28年	29年	30年	令和元年
農業全体	13.1	26.1	24.3	2.1	▲ 6.9
稲作（北海道）	10.1	19.9	54.4	▲ 5.9	▲ 2.4
稲作（都府県）	7.0	33.4	36.0	16.9	13.4
畑作	▲ 15.4	▲ 3.5	▲ 2.1	▲ 1.9	▲ 8.6
露地野菜	▲ 10.0	16.5	▲ 7.8	0.8	▲ 43.1
施設野菜	▲ 0.6	26.0	8.7	▲ 11.6	▲ 31.2
茶	▲ 59.4	▲ 1.3	18.1	▲ 41.1	▲ 63.5
果樹	10.9	34.9	28.0	15.0	15.7
施設花き	▲ 15.4	7.3	▲ 28.6	▲ 23.3	▲ 25.3
きのこ	▲ 6.4	▲ 18.2	▲ 11.3	▲ 39.6	▲ 46.4
酪農（北海道）	85.9	79.3	67.8	47.6	33.0
酪農（都府県）	61.7	50.7	14.4	17.6	34.2
肉用牛	85.8	76.4	17.1	20.4	▲ 21.5
養豚	26.9	▲ 15.1	63.6	▲ 55.0	▲ 24.5
採卵鶏	74.0	▲ 12.0	1.7	▲ 66.7	▲ 53.2
ブロイラー	28.8	▲ 9.7	37.5	▲ 11.6	▲ 28.3

表3. 雇用状況D I

	平成27年	28年	29年	30年	令和元年
農業全体	▲ 26.3	▲ 33.6	▲ 36.8	▲ 34.7	▲ 34.9
稲作（北海道）	▲ 26.7	▲ 35.6	▲ 39.0	▲ 41.2	▲ 36.9
稲作（都府県）	▲ 18.8	▲ 27.3	▲ 27.8	▲ 27.6	▲ 29.5
畑作	▲ 33.6	▲ 40.8	▲ 45.0	▲ 40.9	▲ 42.7
露地野菜	▲ 34.9	▲ 41.5	▲ 43.4	▲ 36.7	▲ 38.2
施設野菜	▲ 24.1	▲ 30.8	▲ 33.0	▲ 30.9	▲ 30.1
茶	▲ 26.6	▲ 30.8	▲ 37.7	▲ 40.7	▲ 39.5
果樹	▲ 25.6	▲ 32.0	▲ 36.8	▲ 36.9	▲ 36.0
施設花き	▲ 26.8	▲ 31.6	▲ 34.4	▲ 31.8	▲ 29.9
きのこ	▲ 26.6	▲ 37.6	▲ 41.2	▲ 42.0	▲ 42.0
酪農（北海道）	▲ 40.4	▲ 45.0	▲ 52.5	▲ 44.1	▲ 38.7
酪農（都府県）	▲ 25.8	▲ 28.0	▲ 27.6	▲ 26.3	▲ 35.3
肉用牛	▲ 24.7	▲ 28.7	▲ 34.3	▲ 32.4	▲ 32.9
養豚	▲ 35.6	▲ 44.5	▲ 44.3	▲ 32.7	▲ 29.8
採卵鶏	▲ 31.0	▲ 43.2	▲ 47.4	▲ 41.1	▲ 38.9
ブロイラー	▲ 15.4	▲ 21.4	▲ 36.4	▲ 25.0	▲ 37.4

表4. 設備投資予定ありの比率

	平成27年	28年	29年	30年	令和元年	2年
農業全体	34.5	43.6	51.8	46.6	44.3	44.3
稲作（北海道）	26.1	44.1	48.6	45.2	41.0	43.2
稲作（都府県）	32.5	45.1	53.5	49.8	47.0	49.1
畑作	37.2	50.1	54.1	53.2	49.7	53.1
露地野菜	34.8	41.9	50.8	44.6	43.8	38.1
施設野菜	34.6	38.6	46.3	40.2	38.0	33.3
茶	30.3	28.2	45.7	40.5	40.7	31.2
果樹	31.7	38.2	45.5	33.5	35.2	34.2
施設花き	26.3	28.1	41.1	30.8	28.8	35.4
きのこ	36.6	44.9	47.3	43.2	51.9	36.8
酪農（北海道）	36.4	42.0	53.7	46.1	44.3	43.7
酪農（都府県）	42.8	38.3	58.0	49.4	48.4	42.2
肉用牛	41.1	49.9	56.8	46.2	45.1	48.5
養豚	55.9	54.4	62.1	58.0	45.5	50.2
採卵鶏	46.5	54.0	61.3	61.2	44.2	52.4
ブロイラー	47.8	55.8	59.7	51.8	55.1	58.7